

〈ねる会議様 抗議声明全文〉

■『ルポ 路上メシ』への抗議声明

2025年11月22日、双葉社より、國友公司著『ルポ 路上メシ』（発行者 島野浩二）が出版されました。これは、『週刊大衆』（2024年5月25日号～2025年9月22日、29日号）に連載されたものです。同書は、取材の手法と、内容の両面において、野宿者、生活困窮者を侮辱し、危険にさらすものであり、また事実関係においても多くの誤りを含みます。

私たち、野宿当事者および支援者からなる団体であるねる会議は、同書の出版について、出版元である双葉社、ならびに著者である國友公司氏に対して抗議します。

■問題点1: 対象者の同意なき取材と公開

國友氏は同書（『ルポ 路上メシ』、以下同様）において、前著『ルポ 路上生活』（2021, KADOKAWA）と同様、取材という目的を隠し、立場を偽って野宿者、生活困窮者に近づき、情報を集めています。これは、同書の記載（p. 118, p. 211, p. 291）でも示唆されています。また、國友氏に接触され、同書でプライベート情報を暴露された人たちへの、私たちの聞き取りでも裏づけられています。たとえばある人は、國友氏が、自身が生活保護を受けている、と虚偽の説明をしたのを聞いています。

このようにして近づいた人たちの親切心を利用して、話を聞き出すような取材手法は悪質です。炊き出しなどでの情報交換や助け合いは、野宿者、生活困窮者が、不安定な状況で生活するために不可欠なものです。同書のような取材は、そのネットワークをこわすことにつながります。

同書には、野宿にいたる経緯、生活保護利用の状況、病歴、職歴など多岐にわたるプライベート情報が記載されています。寝場所、風貌、年齢などから人物が特定されうる描写もあります。その一方で、誤った内容も含んでいます。このようなことを本人の同意なく書きたて、出版するのは、重大な人権侵害です。

なお、國友氏は自分の情報収集を「潜入取材」（p. 303）と位置づけようとしています。しかし、同書の対象は、野宿者、生活困窮者など、社会的に力が弱いとされる人たちです。権力の内部に入り込んで内実を明らかにするという、一般的な意味での潜入取材にはあてはまりません。

■ 問題点2: 野宿者の寝場所を危険にさらす記述

同書は、野宿者の現在の寝場所を詳細に記しています。その中には、人目につかないように就寝している場所すらあります。寝場所を公開することで、野宿者への暴力や放火などの「襲撃」をまねくおそれがあります。本書の記述は野宿者の生活と生命を脅かす、著しく配慮に欠けたものです。

■ 問題点3: 支援すること/受けることをおびやかす行為

國友氏は、知り合った人から話を聞き出すだけでなく、支援団体による野宿者の訪問活動を尾行し、それによって特定した寝場所を具体的に書いています（p. 129, p. 134, pp. 150-151）。寝場所を公開することの危険性は前節で述べたとおりです。

居場所、寝場所を訪問する活動は、個人の生活領域に入りこむため、慎重に行う必要があるデリケートなものです。國友氏の行動、および同書の記述は、こうした支援活動に求められる信頼性、安全性を損ない、また、支援を受けることを危険にさらしています。

また、同書は炊き出しの日時や場所などの詳細を、私たちが確認した限りでも複数の活動について、主催者の同意なく書いています。これは、野宿者、生活困窮者の食事の場所を好奇の目にさらし、安心できない場にするものです。くわえて主催団体にとっても、周辺住民との関係や、活動のキャパシティなど、微妙なバランスの中で成立している活動の継続を難しくするものです。

■ 問題点4: 野宿者、生活困窮者に対する侮辱

同書は全体として、野宿者、生活困窮者を奇異な観察対象として取り上げて、揶揄、冷笑する視点から書かれています。その姿勢は、たとえば、次のような表現に示されています。

「長年の習慣で体の調整機能すら進化してしまっているのかもしれない。もはや爬虫類である」（p. 22）

（「人に何かをしてもらったらお返しをしないと気が済まない」という人について）「捕まえたネズミでも渡されたりしても困る」（p. 98）

「聞いているだけで頭が悪くなりそう」（p. 333）

國友氏の接触を受けた何人もの人が、このような記述にふれてショックを受けています。また、異議申し立てをすることが困難な人を揶揄の対象にすることは卑劣であり、それを娯楽的な読み物として商業出版し、利益を得ることは搾取的です。

このような侮蔑的な視線と描写に満ちた本書の出版は、本の中に書かれている人たちだけでなく、野宿者、生活困窮者一般に対する差別を助長するものであり、断じて許せません。

私たちは、上記の問題点を含む同書を出版した双葉社と國友公司氏に強く抗議します。

〈双葉社 回答全文〉

以下、いただいた抗議に対する弊社の回答となります。

なお、以下の回答は著者・國友公司氏と話し合いを経て合意したものです。

■ 問題点1：対象者の同意なき取材と公開

本書では、著者は炊き出しの場などを中心に取材者と明かさず、事前の同意を得ずに野宿者や生活困窮者の方に取材を行いました。また、原稿を公開する前段階で所在地がわかっている方に対しても発言を確認してもらうための作業を行いませんでした。取材の中で著者が「生活保護を受けている」と話したとのご指摘については、取材時に立場を明かさず、「家がない」「生活保護を受けようと思っている」と発言したことは事実です。こうした取材方法を取った結果、善意を持って個人的事情を含めた話をしてくれた方らをあざむき、精神的苦痛を与えてしまいました。本書において、こうした取材手法を取るべきではありませんでした。同時に、本書では当事者を匿名および一部特徴を踏まえた仮の名前で記しましたが、個人が特定されうる描写が複数箇所ありました。個人の特定に至らぬよう、細心の注意を払うべきでしたが、明らかに不十分でした。当事者、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

本書においては、炊き出しという場について、野宿者・生活困窮者、支援団体、行政、周辺住民らの微妙なバランスの中で成立しており、単なる食事の提供の場ではなく、当事者間の情報交換や助け合いのネットワークの中心として存在することへの理解が欠けていました。本書における取材では炊き出しの参加者や主催者などに取材の許可等は得ていませんでしたが、仮にそうした当事者の許可を得た取材であっても、そこに集まる方の個々の事情や前述した微妙なバランスを鑑みれば、通常の取材以上に注意・配慮や慎重さを求められることは言うまでもありません。本書の取材により個々の事情を抱えた方が安心して集まれる炊き出しの場に、不安や不信感を与えてしまったことをお詫び申し上げます。

■ 問題点2：野宿者の寝場所を危険にさらす記述

寝場所を記すことで、野宿者や生活困窮者の生活と生命がおびやかされるとのご指摘は、真摯に受け止め、お詫び申し上げます。寝場所を記すことで、路上生活を送る野宿者に対する嫌がらせや襲撃行為など、安全が大きくおびやかされる可能性があります。当事者にとっての居場所・寝場所の重要性、さらには生命身体の危険に対する理解が欠けていました。

■ 問題点3：支援すること/受けることをおびやかす行為

ご指摘の支援団体の訪問活動に、著者が無許諾でついていったことで、野宿者や支援団体の方々に多大な不安を与え、また当事者の居場所・寝場所を記したことで安全を大きくお

びやかす可能性がありました。個人の居場所・寝場所に赴く訪問活動において重要な慎重さや繊細さに対する理解が欠けていました。こうした事実を踏まえれば、訪問活動に無許諾で行くべきではありませんでした。また炊き出しの活動日時・場所を配慮なく記したことで支援活動に支障を生じさせたというご指摘についても真摯に受け止め、お詫び申し上げます。問題点1で記したように、微妙なバランスの上に成立している炊き出しという場に対する理解が欠けていました。

■ 問題点4：野宿者、生活困窮者に対する侮辱

ご指摘いただいた表現が差別的であり、ご指摘以外の部分についても不適切な描写が少なからずあることを弊社、著者ともに、今は明確に認識しております。また、本書における野宿者・生活困窮者に対する「揶揄・冷笑の視点」というご指摘についても重く受け止めます。本書における描写が当事者の方々に深く傷つけること、差別や偏見を強化・助長する危険があることに配慮がないまま、出版されてしまったのは、本書の取材および編集の過程も含めて、弊社および著者の視点の中に無自覚な偏見や無自覚な特権性があったことが問題の本質だと考えております。野宿者・生活困窮者の方が抱える複雑な事情や解決が難しい困難に対して寄り添い、心の目線を合わせる姿勢が欠けていました。

言うまでもなく、差別は許されないものです。二度と同じ過ちを繰り返さぬよう、今後、弊社においては、社会を見つめる正しい視点と想像力をもって、取材・出版物の刊行を行えるよう、社員教育・チェック体制の構築に努めてまいります。

改めて、本書において多くの当事者や関係者の方々に多大な精神的苦痛を与えた事実を極めて重く受け止め、深くお詫び申し上げます。

2026年7月16日

株式会社 双葉社